「スーパーグローバルハイスクール」
「WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業」
令和2年度連絡協議会
ー事例発表③　観点：高大連携による人材育成ー

2020. 10. 29

国立大学法人　愛媛大学（管理機関）

愛媛大学附属高等学校（事業拠点校）

構想名
「高大連携の国際化を通したSDGsグローバル人材の育成」

2020年度コロナ禍での状況

附属高校

4月 9～　5月10日 臨時休業
5月11～　24日 分散登校
25日～8月 7日 全体再開～1学期終業
8月19日～　2学期始業（夏休み短縮）
※感染拡大防止対策を講じての教育活動の継続
※県外、海外の移動の制限

愛媛大学附属高等学校

愛媛大学

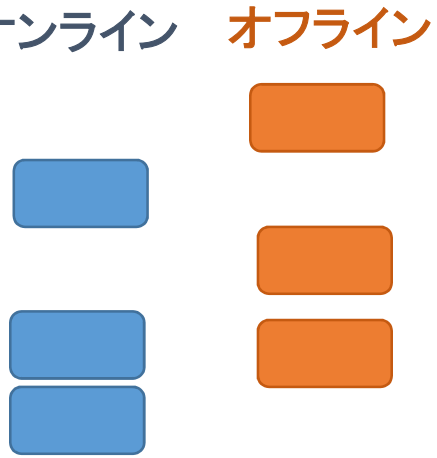
第1Q（4月 8～6月10日）すべて遠隔講義
第2Q（6月11～8月 6日）遠隔講義＋実験・実習科目では対面講義も可
第3Q（10月1～12月3日）遠隔講義＋対面講義（許可制）
※高大連携事業の一部中止
（リベラルアーツ・初修外国語）
※県外、海外の移動の制限

愛媛大学 EHIME UNIVERSITY

発表内容

オンラインとオフラインを融合させたグローバルキャンパス実現の加速

1. 愛媛大学の留学生を学生補助員として雇用
2. オンラインでの課題研究成果発表会
3. 地域を巻き込む異文化理解
4. 授業外での国際交流～特別活動・留学喚起～
5. 遠隔での学校間連携

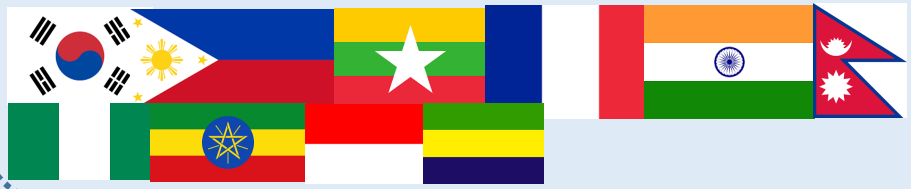


1. 愛媛大学の留学生を学生補助員として雇用

オフラインの工夫

理工学研究科、連合農学研究科、法文学研究科、教育学研究科、人文社会学研究科より15名の留学生（大学院生・研究生）を学習支援員として雇用

出身国：韓国、フィリピン、ミャンマー、フランス、インド、ネパール、ナイジェリア、エチオピア、インドネシア、ガボン



実習関連授業科目アシスタント	116時間
設定科目「異文化理解」特別講義	10時間
留学喚起の動画制作	60時間

(9月4日～10月16日実績。延べ時間。)

上床ほか. (2020). グローバル人材育成を目指す高大連携の展望－WWLコンソーシアム構築支援事業を通した高大連携の充実－.令和2年度 日本教育大学協会研究集会発表資料集. pp. 126−129.

隅田ほか. (2020). コロナ禍における地域コミュニティ・ベースのグローバル人材育成の試み–愛媛大学附属高等学校WWLの高大連携による国際化促進を例として–. グローバル人材教育学会第6回中国四国支部大会. 発表申込中.

2. オンラインでの課題研究成果発表会

オンラインの工夫

９月18日～30日までオンラインで公開開催
（特設ページの作成。非同期）

- 遠隔で高大連携による指導を継続
- 愛媛大学全学部（法文、教育、社会共創、理、　医、工、農学部）の教員からの指導
- 3年生全員が発表
- 2,000を超える閲覧（県外、海外からの閲覧有）

同時に校内限定で1･2年生を対象に発表会も実施。

隅田. (2020). 高大連携による「課題研究」に関するサイバーメンタリングの試み－非対面と対面の最適なハイブリッド型指導へ向けて－. 理科の教育. Vol. 69, pp. 24-26.

3. 地域を巻き込む異文化理解

オフラインの工夫

台湾学習グループ：松山青年会議所主催外国人向け観光復興支援事業「まつやまにおいでんか～WELCOME TO MATSUYAMA～」の制作動画コンテストへの応募。

インド出身（1名）、ミャンマー出身（2名）、インドネシア出身（1名）の留学生が参画し、多様な外国人から見た道後の魅力について聞き取り調査に協力

4. 授業外での国際交流～特別活動・留学喚起～

オフラインの工夫

オンラインの工夫

昼食時に留学生が作成した
留学喚起ビデオを上映

愛媛CATV提供

運動会での国際交流

5. 遠隔での学校間連携

オンラインの工夫

愛媛大学SDGs推進室教員を講師とし、
3つの連携校をオンラインで結び、
SDGs教員研修会を実施（参加教員数71名）

令和２年度～４年度　文部科学省

WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業
「カリキュラム開発拠点校」

愛媛大学附属高等学校
構想名「高大連携の国際化を通したSDGsグローバル人材の育成」

令和２年度　WWL事業　SDGsに関する教員研修会（第１回）

日時　7月2日(木)13:30～15:15

場所　各高校にてZoom参加
参加校　愛媛県立松山中央高等学校　愛媛県立西条高等学校
京都学園中学高等学校　愛媛大学附属高等学校

演題　「SDGsの達成に寄与する人材の育成に果たすESDのかたち」

講師　小林　修　愛媛大学国際連携推進機構・准教授
同アジア・アフリカ交流センター・センター長
愛媛大学SDGs推進室・副室長

■略歴・1967年 千葉県生まれ
4歳から10歳までの6年間をアメリカ合衆国ニューヨークで過ごす。
千葉県内の公立小・中学校を卒業，私立国際基督大学高等学校卒業
・北海道大学大学院農学研究科博士課程林産学専攻修了（博士（農学））
北海道大学ヒグマ研究グループに在籍し，ヒグマの保護管理に従事。農学部林産学科に進学後，樹木年輪解析を通じた古環境の復元（大気汚染，気候変動）を研究。
・平成21年愛媛大学国際連携推進機構・准教授
・平成31年4月から，同機構アジア・アフリカ交流センター・センター長

■講演内容
アメリカ合衆国在住経験や，ヨーロッパ諸国，ネパール，インドネシア，中国，モザンビークでの海外経験から，持続可能な社会をつくるためには，アジア・アフリカ諸国が共有する「自然と共生する暮らし方」を基調とすることが大切だと考えています。現在は，SDGsの達成に寄与する人材を育成することを目標に，日本国内はもちろんのこと日本と海外の地域と地域が国境を越えてつながるESDプログラムの開発実践に取り組んでいます。
講演では，国連「SDGs（持続可能な開発目標）」の達成に貢献する人材育成を目指した「ESD（持続発展教育）」の基本理念と実践方法について情報を提供します。教科横断型の学びや，環境教育と国際理解教育，さらに児童・生徒の生活環境（食と健康，消費行動含む）に関して，地域と連携した学習活動を組み入れた学習方法について具体例を一緒に見てゆきましょう。

日本ESD学会
副会長
手島利夫先生の
研究室HPです。
参考になさってください。

世界を変えるための17の目標　17 GOALS TO TRANSFORM OUR WORLD

愛媛大学附属高校
マスコットキャラクター
Mr. Sheep

筑波大学附属坂戸高校生とSDGsに関する交流学習

フジテレビ
「環境クライシス」
2020.8.24

愛媛大学附属幼稚園の
園児に遠隔で栽培指導